

---

# ルパンVSコナン～その後～

lovepe

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ルパンVSコナン〜その後〜

### 【Nコード】

N8286G

### 【作者名】

lovepe

### 【あらすじ】

テレビアニメの記念番組でのルパン三世VS名探偵コナンのその後の話です。試行錯誤してルパンとコナンが協力して事件を解決する話を書きました。

## FILE 0：プロローグ

コナンが不二子に日本に送ってもらったときの話

コ「ありがとう、お姉さん。」

不「いーのよ、困ったときはお互い様よ。」

コ「あと、一応おじさん達にもお礼言っておいて。」

不「分かったわ。じゃあ、ここでお別れね。」

コ「うん。じゃあね。」

不二子はそのまま知り合いの船に乗って帰っていった。

コ「ふう〜。なんか色々あって疲れたなあ。」

コナンは探偵事務所の上の自宅に入ったら、

蘭「コナンくん、おかえり〜。大変だったね。」

コ「ただいま。でも、元はと言えば蘭姉ちゃんがお人好しだからでしよ。」

蘭「…うっ、たしかにそうね。ごめんね。」

コ「まあ、でもそのおかげで色々知れたし…。」

蘭「え、なんか言った？」

コ「ううん、何でもないよっ。」

それから、数日後太平洋上空…

ル『さてと、そろそろ日本か。こりゃ、またあのガキンちよに会うかもしれないなあ。』

その頃、毛利探偵事務所では…

小『ヨーコちゃ〜ん』小五郎が沖野ヨーコの歌番組を見ていた。

コナンの心の声(つたく、蘭が居ないことをいいことに昼間っから酒飲んで…。)

テレビニュース『番組の途中ですがここで緊急ニュースです。』

小『おいおい、そりやないだろっ〜』

テレビニュース『なんとあのルパン三世がこの日本で盗みを犯すそうです!』

小・コ『えええ〜!!』二人はテレビに食い付いた。ニュースによると政治家の黒澤孝の家宝

「徳川家康の宝刀」がルパンに狙われているらしい。そのニュースがやった日の夕方毛利探偵事務所にも依頼が来た。

小『そうすると、ルパンは宝刀が展示しているその博物館に盗みにくると。』というと、政治家の秘書は

秘『はい、それで警察にはもう依頼したのですが黒澤氏が是非毛利

探偵にも警護をお願いしたいと。』

小『そうですね、しかし何故私に?』

秘『詳しい理由は分かりませんがとりあえずは明日杯戸博物館までいらして頂けますか?』

小『はい、分かりました。個人的にルパンには色々ありまして。』

秘『では、また明日。失礼します。』

小『はっはっは、これであの時眠らされた借りを返せるぜ!』小五郎はかなり気合いが入っていた。

コ(ははは。にしてもルパンが日本に来るのは珍しいな。これは何かあるな。)コナンは蘭に阿笠博士に用があると行って事務所を飛び出した。

その頃、ルパンは…

ル『ふう〜ん、ここが高校生探偵工藤新一の家か。でっけえ〜な〜。あいつ坊っちゃんかよ。』なんと新一の家の前に居た。とそこにスケボーに乗ったコナンが来た。

ル『おお〜ガキんちよ〜、元気だったかあ?』

ルパンは手を降って呼んだが、そこにコナンがサッカーボールをおもいつきり蹴った!!

ル『うわあ〜、ってなにすんだよ〜』

コ「何って今度悪いことしたら捕まえるって言ったよね。」コナンはそういつと時計型麻醉銃をかまえた。

ル「い、いやっ。今日日本で起きてるルパン騒動は俺の仕業じゃないっつて。」

コ「えっ、どういうこと？」

ル「まあ、立ち話もなんだし家人ろうぜ。ここお前んちだろ？」

コ「分かった。とりあえず詳しく話聞かせて。」

灰「ちょっと、いーかしら。お二人さん。」

ル・コ「えっ!？」二人はその声にビックリした。振り向いたら灰原がかなり不機嫌そうな顔で立っていた。

灰「人の家の前で騒がないでくれる!!」

コ「ああ、わりーわりー。」

ル「…。誰?」

コ「ああ、え〜と説明すると長くなるから。灰原、博士いるか？」

灰「ええ、いるわよ。」

コ「じゃ、とりあえず中入って話そう。」

博「おお、新一君今日は何の用かね?」そういつと博士はコナンの後ろに居たルパンを見た。

博「そちらの方はどなたかな?」

コナンは面倒くさそうだがルパンと博士と灰原に紹介と説明をした。

10分後：

博『ええ〜ルパン三世！』

コ（つて今さらかよっ！）心の中でつつこんだ。

博士と違って灰原はかなり落ち着いていた。

灰『へえ〜ルパン三世って本当にいたのね。私はてつきり小説か漫画の世界かと。』誰かさんと同じ言葉を発していた。コ『でさ、どう言うことなの？俺の仕業じゃないって。』ルパンに聞いた。

ル『なんかしらね〜けどあの政治家俺に恨みがあるらしくおびき寄せるために俺の名を使ってるらしいんだよ。』

コ『本当に理由知らないの？何か前にあったとか。』

ル『う〜ん、もしかしたら狙われてるって言ってるのは宝刀だったから俺の仲間の五衛門がなんか知ってるかもしれないな。』という  
とルパンは携帯を取り出し誰かに連絡をとった。

灰『ねえ、工藤君。彼信用できるの？』

コ『まあ、何か知ってるっばいし。ここは信用してみようぜ。』

ル『やっぱりそうだった。政治家が展示している宝刀も五衛門が元々持っていた刀でその政治家が今五衛門が持っている刀も狙っているらしい。それで俺と一緒にいる五衛門を誘きだそうって言う魂胆だぜ。』

コ『なるほど。そういうことか。滅多に日本に来ないルパン三世が盗みに来るのはおかしいと思ってたんだ。』

博『で、これからどうするんじゃない？』

コ『とりあえず明日毛利のおっちゃんを杯戸博物館に呼ばれてるから俺も一緒に行くよ。』

ル『俺も変装して潜り込む。五衛門たちも行くらしいが刀を取り返しに行くのと取られるのをカバーしないとな。』

コ『じゃあ、また明日。』

ル『ああ、頼んだぜ。名探偵！』『そういうとルパンは帰っていった。

未明、杯戸博物館では…

黒澤『フッフッフツ、これで準備は万端だ。さあ、いつでも来い！  
ルパン・五衛門！』不気味な声が響き渡っていた…。

## FILE 1：潜入

犯行？当日…

杯戸博物館・午前10時

小五郎と蘭とコナンは杯戸博物館前に来た。

小『ここかあゝ。にしてもさすが警備だなあゝ。』小五郎が上をみるとヘリがスゴい飛んでいた。

蘭『これからどうするの？お父さん？』

小『とりあえず中に入れてみるか。』

コ（ルパンさんは今日はどうやって潜り込むつもりだろう？）

その時一台のパトカーが目の前に停まった。中からは…

小『銭形警部ではありませんかあ。』

銭『えっ、こりやお久しぶりですな。毛利さん。』といいながら近づいてきて握手するのかと思ったら顔に手を伸ばし…

小『あいてて。何するんですか、銭形警部。』小五郎は涙目になつて頬を擦った。

銭『あー、こりや申し訳ない。てっきりまたルパンが変装してるものかと…。』

小『そりやないですよ。』その光景見て、蘭とコナンは大笑いをしていた。とそこに…。

秘『あの〜、毛利さんに銭形警部ですよ？黒澤氏がお待ちですのてこちらへどうぞ。』

小・銭『あ、はい。』

黒『あつ、始めまして。黒澤です。どうもわざわざご足労ありがとうございます。』

『 銭『いえいえ、それでルパンが狙っているという宝刀はどちらに…。』

黒『こちらです。なんとしてもルパンから宝刀を守って下さい。お願いします!』

銭『もちろんです。では、私は警備の方を見えますんで。』

小『それで黒澤さんなぜ私に依頼を?』

黒『いや、この間のヴェスパニア王国でのルパンの件に毛利さんが関わったと風の噂で聞きました。日本でルパンに関わった人は少ないもので。』

小『そういうことでしたか。いや、実はその時にルパンには借りがあるもので何としても宝刀は守ってみせます!』その横でコナンと蘭は呆れた顔で見ていた。

コ『蘭姉ちゃん、僕ちょっとトイレ〜。』

蘭『気を付けてね。』

コ『はぁーい。』

(さてと、ルパンさんは誰に変装してるのかな?)

警備員『おい、ガキンちよ。こっちこっち。』

コ『ん?もしかしてルパンさん?』

ル『そうだよ。』といい変装をとった。

コ『それでこれからどうするの?』

ル『とりあえず宝刀が飾ってある部屋は赤外線センサーとか半端なく仕掛けられてるし、宝刀がしまっているケースは強化ガラスだからなあ。俺には破れねえ。』

コ『えっ、じゃあ。どうするの?』

ル『いや、俺は破れなくても五衛門には破れるからタイミングを見計らって五衛門が来る。俺はその時に五衛門を援護する。』

コ『じゃあ、僕はどうすれば?』

ル『出来れば銭形のとっつあんをその時にその時計で眠らせて欲しいんだ。』

コ『でも、あのおっさん化けもんだよ。前の時にあつと言つ間に目覚ましたし。』

ル『ははは。まあ、ちょっとだけでいいからよ。』

コ『分かった。じゃあ、その時に。』

ル『よろしくな。』というトルパンはまた変装していった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8286g/>

---

ルパンVSコナン～その後～

2010年10月12日04時48分発行